

# 京都市長選挙 「敬老制度を守る」 絶好のチャンス！

## 足を守る会代表

### 安井冽さん

敬老乗車証制度は「長年にわたり社会貢献してこられた高齢者に敬意を表するとともに、様々な社会活動に参加し、生きがいづくりや介護予防に役立てていただくため、高齢者の福祉増進に寄与すること」を目的に1973年に創設されたものであり、高齢者の生きがいと生活を支え、多くの市民から「市民の宝」として喜ばれてきました。

これに対し京都市は、2021年10月に、「本人負担の3倍化、交付年齢の70歳から75歳に引き上げ、総所得700万円以上は不交付」などの制度の大改悪を強行し、すでに2万5千人が申請することができなくなり、今回3倍化の改悪により交付率がさらに低下することが予測されます。先日の延べ7万筆を超える京都市長への署名提出時に「更新時の本人負担3倍化は

到底受け入れられない」として改悪撤回を申し入れましたが、当局は市財政が好転しても制度を元に戻さないと開き直りの回答をしており、このことを絶対許すわけにはいきません。

引き続き市民と共に運動を強め、制度改悪を撤回させ敬老乗車証制度を守る絶好のチャンスとして来春の京都市長選挙に必ず勝利しましょう。

## 民主市政の会地域団体会議開く 変えよう京都市政

9月22日、民主市政の会は「地域団体会議」開催しました。

会議の冒頭、出馬表明された福山和人さんは「京都を元気なまち」にしようと呼びかけ、暮らしとなりわいを全力応援する市政にする。

政策の骨子は①夢をつなぐ ②なりわいをつなぐ ③町をつなぐ ④未来へつなぐ ⑤ひとをつなぐとし、「光のあたらなところ」に光をあてる、これが政治の役割だ

とするならば、私には在野法曹の立場で20年以上、その仕事をしてきた知識と経験、自負があります。それを活かして市民の皆さんのために全力で市政にあたっていくと力強く訴えられました。

報告された事務局の福島さんは、市長選挙をめぐる情勢を述べられたあと、今すぐ行える6つの行動を提起されました。

①福山和人さんの話を聞き、意見を出し合う場を作りましょう。たくさんの人と一緒に福山和人さんの話を聞きに行きましょう ②10月15日に開催する福山和人さん大街頭宣伝を大きく成功させましょう ③自分たちの要求で、政策を

どんどんブラッシュアップをさせましょう ④自分自身の言葉でいまこそ姿勢を変えようと言語しましょう 対話を通じて要求や市政への思いで繋がる人を増やしましょう ⑤それぞれの団体・地域の基礎

単位から賛同や推薦の運動に取り組みましょう。



## 2024初春前進座公演

日時 2024年1月10日(水)15時30分  
場所 京都劇場(京都駅ビル内)  
観劇料 6,500円  
申し込み等詳細は 各支部へ

**物価高騰に見合った年金の引き上げを!!**  
**低年金の底上げ・最低保障年金制度の創設へ**  
**2023年“京都年金一揆！”**

11月11日(土) 13時30分～16時  
 京都アスニー第8研修室

テーマ 物価高騰に見合った年金の引き上げを・  
 低年金の底上げ・最低保障年金制度の創設へ

記念講演 女性の低年金はジェンダー不平等の積み重ね (仮題)  
 講師 山本妙弁護士 (富山県いみず法律事務所・年金裁判岐阜事案弁護士)

特別報告 フランスでの年金改悪反対に若者は何故立ち上がるのか  
 お話 片岡文子さん (右京区在住)  
 主催 全日本年金者組合京都府本部  
 京都総評  
 京都社会保障推進協議会

# 支部紹介⑱ 下京支部

## コロナ禍で参加者減 復活で仲間増やしへ 新春つどいも予定

### 機関紙は500号達成

「なかま」が500号

支部ニュース「なかま」が11月で第500号を迎えます。先の第34回中央本部機関紙コンクール(支部の部)では審査員の総意で最優秀賞を受賞しました。

「なかま」はB5サイズ、16頁で表紙は季節の花々などの絵を載せています。記事は巻頭言で時々の社会・政治などを語り、活動報告、小説家志望のH氏の恋愛小説、随筆、B氏の世界を縦横に語る寄稿などなど読者を楽しませています。



機関紙『なかま』

### 「コロナ」で集まらない危機

10年前の組合員数は342人でしたが、現在180人と減っています。支部役員も15人(女性3・男性12)でしたが今は7人ですべて男性。支部活動を牽引した力持ち役員や、長年海外旅行記を掲載し読者を楽しませてくれた人などが他界され、思い出す度に残念です。

また、食事会、写真、社交ダンスサークルなど15あったサークルも今は6サークル(麻雀・カラオケ・ヨーガ・囲碁・オカリナ・映画を見る会)の活動となっています。

17年間存続している健康麻雀も、最高時7卓(28人)でしたがコロナ禍で休会を余儀なくされ、再開しましたがレギュラーは11人です。地域に「健康麻雀会員募集」のポスターを貼っても以前のように応募はありません。

カラオケサークルは区内にあった店がなくなり、区外

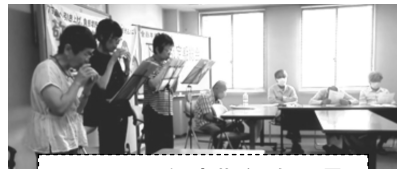


カラオケサークル

のカラオケ店で活動を再開し参加者増やしに励んでいます。多い時は30人参加、18年続けて来た「歩こう会」も、存続の危機を迎えています。

「コロナ」にまけるな!

全国的にコロナ感染の心配や、高齢者の就業者数が昨年、過去最大の912万人(就業率65歳以上50%、70歳74歳33%)になるなど大変な状況です。しかし、コロナ禍に負けるものかと、7月に対面で久しぶりに総会を振り、昼食懇談会など交流を深めました。



2023年定期総会風景

また毎月の役員会に女性のオブザーバー参加を依頼し、女性部活動の再開を模索しています。

来年1月には「歌謡漫才」「三線演奏」などを交えて新春のつどいを予定しています。この11月には年金者組合らしさを発揮しようと「やさしい年金のはなし」学習会を予定しています。 中田弘書記長

## ワンショット



### 素早く動き虫を捕る/エゾムシクイ

スズメ目ムシクイ科

夏鳥のとして日本にやって来るエゾムシクイ。メボソムシクイとセンダイムシクイとよく似た野鳥だが、メボソとセンダイは、褐色が薄く、センダイは頭のとっぺんに微班がある。メボソはお腹が黄色みをおびている。一番わかりやすい区別は鳴き声。「ヒーーツーキーヒー」あるいは「ツーチーツーチー」などと聞こえる特徴ある高い声。「ピッピッ」というのが地鳴き。「ムシクイ」という名前の通り樹上で葉の裏などについている虫を食べている。このムシクイが都市公園に長く逗留して

いる。虫を主食としており喉が渇くのかよく水飲みにやってくる。動きが素早く、せわしく動き、すぐに消えていく。冬には東南アジア方面に渡っていく野鳥で、全長11.5cmという小さい割に長い距離を単独で渡っていくのだろうか。山あり、海ありの果てしない距離をいかにして渡っていくか。天敵も多いはず。すごい能力と体力の持ち主なのでしょう。(浜)

京都年金者文芸



俳句

我が家を逆さに見てる守宮かな  
 ゆらり咲きちらほら散りて百日紅  
 美容室鏡の中の入道雲

木村喜代美  
 白木 礼子  
 倉田 圭子

以上舞鶴年金者しんぶん  
 紫蘇ジュース香りも良くて色も濃く  
 染りゆく紅葉の谷間に平等院の鐘

今井 節子  
 宇治川太郎

以上宇治・久御山ねんきん  
 鈴虫や一日の疲れ癒される  
 星月夜子等の心の万華鏡

坂本二三恵  
 荒田 義枝  
 野尻 きみ

以上北桑田支部  
 日の入りを待ちて散水九月かな  
 衣被ゆっくり老いてゆく覚悟

康弘  
 寿美恵  
 紀代子

以上舞鶴年金者しんぶん  
 夏燃えるトラの勢ひARE近し  
 虫の声気付けば夜風心地よし

一井 義光  
 近藤 壽美  
 藤井 節子

以上これからだ(福知山)  
 彼岸来て畝を作るも力尽き  
 この暑さどこへ持っていくすべもなく

村松 秀一  
 三宅まさ子

以上ねんきん城陽  
 残してよ今は廃校子の母校  
 立ち枯れし穂のいたましき米どころ

倉田 伴子  
 勝野 修子  
 三上 愛子

以上ひがしやま(東山)  
 手料理で独り寿ぐ敬老日  
 蒸し暑し団扇の風にじわり汗

広田浩三(下京)  
 野原みか(西京)  
 谷口久子(右京)

医者通ひできる幸せ日日草

千龍子(舞鶴)  
 出雲源人(綴喜)



短歌

原発の再稼働さるる高浜は  
 十二年振り眠られぬ夜に  
 娘から母の曰かれたピンクアジサイ  
 雨にうたれてしおれるを悔やお  
 百日紅淡きピンクに咲き出でて  
 夏の疲れが溶かれゆく夕

北村豊子  
 西浦小百合  
 八木幸雄

以上船井丹雲の会  
 被爆者の強き願いを伝えたい  
 スーパー前に「9の日宣伝」  
 門柱に「蟬のぬけがらみつけたよ」と  
 喜ぶ夫は少年の表情(かお)

堀岡美和子  
 須藤ゆう子

以上宇治・久御山ねんきん  
 白き根の微かに兆す苺苗  
 「しっかり根付け」土寄せてやる  
 真夜中を空切り走る稲光り  
 雷鳴連れて一人居襲う

山口妙子  
 野垣幸子

以上舞鶴年金者しんぶん  
 こんにちわ数歩途中の挨拶も  
 夕立ちのあと少しさわやか  
 不意に見る大空の青白い雲  
 木枝切らんと仰ぐその先  
 ふじばかまこまつぶみたいな蕾つけ  
 開花の時を静かに待てり  
 戦争の悲げき忘れず伝えたい  
 未来担う子ども達へと

田中康晴(西京)  
 森鼻明子(城陽)  
 所川和美(綴喜)  
 寺澤幸子(伏見)

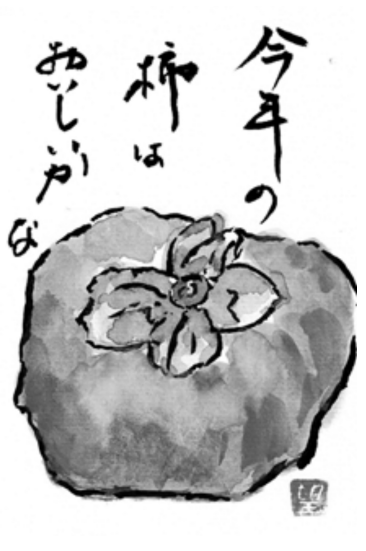
川柳  
 満月を見るたびかえる童心に  
 秋の夜にベーターベンも月見した?  
 改造で代えてほしいは首相の顔  
 令和でも「慶応」輝く夏の空

白夜  
 美夜生  
 千龍子(舞鶴)  
 出雲源人(綴喜)

趣味の紹介



右京支部 木下圈一さん



右京支部 西田望音子さん

# アスベスト訴訟 最高裁で証言

## 屋外工除外に 怒り

### 北区で生まれ今も

木村慶子さんは、京都市北区で生まれ育ち、今も北区にお住まいです。4年ほど前に年金者組合北上支部の30周年記念作品展を見て組合を知り、サークルの「歴史散歩」に行きたいと加入されました。当時は自律神経が悪化していたので体調を良くしたい、きつい運動は無理だけど1時間ちょっとくらいなら歩き通せると考えてのことでした。

「歴史散歩」は月に1回、主に北区と上京区、時には中京区まで足を延ばして街に残る歴史的なものを見つめます。案内役は支部の藤井彰書記長です。木村さんは「ずっと北区に住んでい

るのに、連れて行ってもらうと知らんとこぼっかり」と楽しそうです。

これまでで一番面白かったのは市電の北野線跡を見に行ったときで、「古いものを見ていると子どものころを思い出す」そうです。子どもの頃のお住まいは常徳寺近く、子どもがたくさ

んいて道の両側にゴムを張ってゴム飛びをしていたこと、夜になったら花火をしていったこと、地蔵盆は3日間ぐらいいったこと、お年寄りたちが床几を出して将棋を楽しんでいたことなど次々に浮かんでくるようでした。また、西陣の辺りには映画館が7つか8つくらいあって、特に千本中立売あたりにはお父さんがよく連れて行ってくれた映画館があったと懐かしそうです。

### 夫君アスベスト疾患

木村さんが体調を崩されたのは、建築職人だった夫の木村正男さんがアスベスト関連疾患で闘病されてい

たためです。正男さんは69歳で仕事に区切りをつけ、これからは楽しいことをしよう、新婚旅行で行った宮崎にまた行きたいねと話合っている頃から咳が出始めて止まらなくなりました。検診の結果、仕事で使っていたアスベストが原因と分かり、京建労仲間とともに国と建材メーカーに対し集



# 輝いて元気に

(きむら よしこ) 木村慶子 さん (北上支部 79歳)

団訴訟を起こしました。ところが正男さんの症状は思いのほか早く進んで、まだ京都地裁の段階で亡くなっ

### 2陣・3陣訴訟支援を

慶子さんは訴訟を引き継ぎ、最高裁法廷で訴えもしました。それなのに、原告25人のうち正男さんだけは被害を認められなかったのです。理由は屋外の作業だから濃度は薄まっていたというものでした。

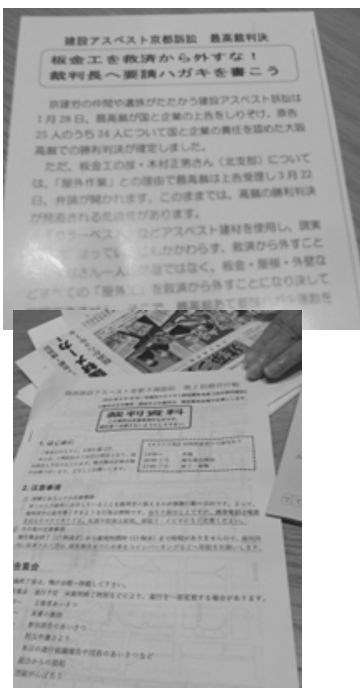
慶子さんは判決を聞いて、正男さんが亡くなった時よりも落ち込んだと話されました。ただ判決は確定したものの、アスベスト補償制度の申請をするよう厚生労働省から連絡があり、京建

労北支部の援助を得て認定してもらうことができま



「京建労、原告団、弁護団の方たちには本当にお世話になりました。これから話を向いて歩いていくだけです」「第2陣、3陣裁判を小さい力ですが応援していきたい」と仲間への思いと決意を話されています。

(取材 矢吹美根子 西田美津子)



アスベスト裁判の資料